



## プレイス 木のぬくもり プロジェクト

地域にゆかりのある木に親しもうと  
「プレイス木のぬくもりプロジェクト」は、  
建設などで伐採された白樺や桜の木を工作して、  
武蔵野プレイスの施設内に活用しています。



左から山口雅也さん、栗原毅さん、宮方義仁さん

### 武蔵野プレイス創設時の 市民活動としてスタート

プレイス木のぬくもりプロジェクトは、地域にゆかりのある木材を使って武蔵野プレイス内で使えるものを皆で楽しく工作する市民活動です。

プロジェクトの始まりは、武蔵野プレイスの建設前に、3階にできる市民活動フロアをどう利用していくかを考える市民ワークショップでした。

全9回のワークショップ最終日に、栗原毅さんが「地域の木材を使って何か作らないか」と提案。賛同したメンバーで活動を開始。境南コミュニティセンターを中心に、月1回ほどの集まりで計画を具体化してきました。

これまでに市民活動フロアの本立てを製作したほか、今年10月にはテラスに設置する丸太椅子の3作目と4作目が完成します。

また、市の環境フェスタなどでは工作教室の企画で参加し、子どもたちに木のコースター製作や丸太の皮はぎ体験なども提供してきました。



今年3月に完成した2つの丸太椅子。乾燥に約1年かけた。



誰でも工作しやすいよう配慮し、宮方さんが考案した本立て。



環境フェスタの工作教室は毎年、子どもたちに大好評。



エンジン式チェーンソーは山口さんが仕事で使うものを借用。

### 自分の地域の木に親しむ 気持ちを大切にしたい

市民であれば「あそここの木か」と心当たりのあるような木材だからこそ、親しみを感じさせる作品に仕上がります。本立ては「むさしのジャンボリー」で訪れる長野県の川上村で伐採された白樺を、丸太椅子は新たなクリンセンター建設のために伐採された桜の木を使用しました。

提供を受けた木材は、この10月の完成で使い終わります。今後は何を作るのでしょうか？

「ゆっくりとした活動なので次のことはこれから考えます。まだ端材で何かできるかもしれないし、親子の木工教室もいいですね。身近な木のぬくもりを一人でも多くの方に感じてほしい。その思いで活動していくことはこの先も変わりません」(栗原さん)

### プレイス 木のぬくもり プロジェクト

2010年発足。現在は会員12名。武蔵野プレイスを中心に平日の夜、月1回活動するほか、イベントなどでは工作教室を実施することがある。工作の作業はプレイス内の駐車スペースの一角を使わせてもらっている。